



デジタル事業部
川端 菜那氏
「4月に入社しました。インプレミアIS29の担当になり、デジタル印刷のことを勉強しながら、操作の練習をしています」



デジタル事業部
伊藤 彩華氏
「インプレミアIS29とユークリッドを担当しています。操作は、PODとそれほど変わりなく、簡単に操作できます」



デジタル事業部 主任
奥村 彰朗氏
「色合わせは、ソフトでジャパンカラーに合わせる形でプロファイルを作成すれば、基準値の色が簡単に出来ます」

輪転機とのカラーマッチングも最高に良かったし、他にもさまざまな商材のテストを行い、その結果を見て2台導入することを決めました」

ユークリッドと合わせて活用しパッケージやシールを内製化

2台のインプレミアIS29と同時に、ユークリッド(デジタルカッティング&クリーニングシステム)日本初号機も導入。現在、若手の女性からなる商品開発部門が、両機を活用してさまざまな試作に取り組んでおり、高永社長

「日々の経験の積み重ねが当社の財産になります。オンラインショップも立ち上げて展開し始めました。デジタルを生かす商品を開発して売ってほしい」と期待する。

インプレミアIS29の日々の運用については、パッケージやシールなど、外注していたメニューや販促物を内製するようになった。

「0.06〜0.6まで紙厚適性があり、ユークリッドと組み合わせることで、さまざまな案件を取り込めます。校正機としてはなく、あくまで色域の広さ、バリアブル、厚紙対応、紙以外の素材への対応など、インプレミアIS29でしかできないことを探していかなければならないと考えています」

機構については、「フィーター・デリバリー部は、KOMORIの枚葉機の知見と技術がぎざみ込まれているので、安心。両面印刷も色も安定しています」と評価。さらに「最新の枚葉機や輪転機は技術の進化が素晴らしいが、一人前のオペレーターを育てるのに5年程度かかります。インプレミアIS29は、少しのトレーニングで誰でも簡単なボタン操作で1枚目からOKシートが出せます。人手不足の問題、技術継承の問題がますます大きくなっていく中、絶対に必要な機械です」と、人材確保における効果も期待する。

現場のオペレーターは、どのように評価しているのか。同機を担当するデジタル事業部の奥村主任は、次のように話す。「タックシールとPET素材のシール

ルなどの印刷テストをしています。UVの速乾性の高さを実感し、短納期化できることを期待しています。また、RGBの全てには対応できてはいませんが、オフセットインキよりもはるかに色域が広く、あまりにも色がきれいなので驚きました。これまで当社で刷れなかった印刷物、PETやプラスチック、キャンバス生地、布地など、これまでにない商品をつくることで、会社の発展につながると思います」

5年で業態変革を形にして次世代にバトンタッチ

高永社長が進める業態変革は、まだ始まったばかりだが、インプレミアIS29とユークリッドの導入により着実に歩みを進めている。

「インプレミアIS29とユークリッドを使った実際の仕事もすでに始まっているが、来年が勝負です。BtoB、BtoCの新たなビジネスモデルをつくっていきたい。従来の当社は大口の商品を扱ってきたが、これからはデジタルを生かすバリアブル、小ロット、短納期の生産力を確立して、ニッチな分野にも挑戦していける夢のある機械です。しかし、小ロット・バリアブルでジョブ数をこなしていかなければ利益が出ないという課題もあります。簡単ではないが、やっていかなければならない。次の世代に安心してバトンタッチできるように、ここ5年必死で進めていく。それが私の仕事です」と、新分野への意欲を語った。

インプレミアIS29で新しい事業領域をつくる

6台の輪転機と2台の枚葉機を保有し、チラシ、ポスター、カレンダー、パンフレットの印刷を事業の中心に据えてきた(株)総合印刷高永は今、業態変革の真っただ中にある。

「広告代理業務やインターネットのホームページの販売・管理・運営業務など、複数の事業ドメインを持っているが、本業の商印・オフセット印刷が、新聞の購読の激減などを背景に先行きが不透明になっています」と話す高永社長。

これまで取り組んでこなかった新しい分野への挑戦を「産業革命」と位置付け、まずデジタル機で挑戦することを決意し、「チラシ・紙媒体の高永」から「デジタルの高永」へと、変革の舵を切った。

「大ロットの紙の印刷は得意だが、デジタル印刷機でのシールやPET素材の印刷は未経験でした。この新しい分野への挑戦を本格化するため、『デジタル事業部』を設立しました。『未経験』とはいえ、ゼロからのスタートではない。創業以来大手スーパーマーケットのチラシ印刷で培ってきた、品質や、納品までの一貫した流れの管理のノウハウ

ハウが生きています」

デジタル事業部は、西坂常務執行役員をトップに就け、若手を中心に構成。デジタル機を使った新しい事業領域をつくり出すのが、重要ミッションだ。また変革の中心には、インプレミアIS29(29インチ枚葉UVインクジェットデジタルプリンティングシステム)を据えた。

「UVで両面機、色域の広さ、B2まで対応している点から、インプレミアIS29を選びました。導入に先駆けてKGC(小森グラフィックテクノロジセンター)でタックシールのテストを実施し、問題ないことを確認しました。



代表取締役
高永 好政氏

「枚葉機でお世話になっているKOMORIのデジタル機であり、夢のある機械だと思っています」

創業時から大手スーパーマーケットのチラシの輪転印刷をメインとし、顧客の成長とともに業績を伸ばしてきた株式会社総合印刷高永。新聞離れによるチラシ減少が急速に進む中、「デジタルの高永」を掲げ、業態の変革を進めている。2019年頭に「デジタル開発室」を設立、2月にインプレミアIS29(29インチ枚葉UVインクジェットデジタルプリンティングシステム)2台と、ユークリッド(デジタルカッティング&クリーニングシステム)を導入した。導入の背景と効果について、高永好政社長、デジタル事業部の奥村彰朗主任、伊藤彩華氏、川端菜那氏のお話を聞いた。

株式会社総合印刷高永

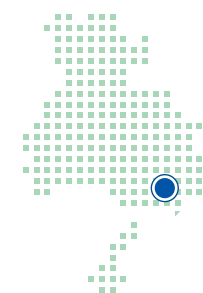
インプレミアIS29とHighconユークリッド導入。

高品質・機動力を生かし「デジタルの高永」へと変革。



上：インプレミアIS29で刷り、ユークリッドで抜いた試作品。
左：インプレミアIS29とデジタル事業部のメンバー。入社3年目と今年入社
の女性オペレーターが活躍している。「インプレミアIS29はクリーンで、
従来の印刷が持つイメージは皆無です」(高永社長)。

HYOGO



本社 / 兵庫県神戸市東灘区御影塚町3-7-12
http://www.takanaga.co.jp/
TEL / 078-821-3131

